

教育と文化

No.125

令和3年3月



作品左から：エドヴァルド・ムンク 18歳《雪景色の中の少年》1881年、トゥールーズ・ロートレック 17歳《馬上の二人の兵士》1881年、クロード・モネ 17歳《森の散歩道》1857年／おかざき世界子ども美術博物館蔵

おかざき世界子ども美術博物館

Contents

- 2 巻頭言
- 4 三河の文化を訪ねて
- 6 教育随想
- 7 教室の窓辺
- 8 特色ある教育活動
- 9 **特集** 体験活動参加者の声
- 10 かきぞめコンクール
- 12 絵画コンクール
- 14 優秀論文入賞者の紹介
- 16 文振だより





巻頭言

教師冥利に尽きる瞬間

公益財団法人愛知教育文化振興会副理事長 浅井 英雄

新型コロナウイルスがもたらしたもの

安倍前首相による突然の「臨時休校」要請が表明されてから1年が経過しました。この1年で私たちの生活は一変してしまいました。いや、激変といった方がふさわしいでしょうか。マスクの着用、手指消毒、3密の回避は、「新しい生活様式」では必須です。インフルエンザ流行期であっても、マスクを着けてこなかった自分が、まさか年がら年中マスクを着用するようになるとは、夢にも思っていませんでした。「クラスター」「ソーシャル・ディスタンス」「ロックダウン」「オーバーシュート」「PCR」……。聞いたこともない横文字があふれ、えもいえぬ不安が増幅されました。得体の知れないウイルスの出現によって、くしくも、我が国のストロングポイントとウィークポイントがあぶり出されたように思います。

国難といわれた東日本大震災のときもそうでした。私たち日本人は、「思いやり」や「親切」、「絆」といった目には見えない情緒的・心情的で精神的なものを大切にし、それらを頼りに互いに手を取り合い、苦境・苦難を乗り越えてきました。今般のコロナ禍でも、こうした国民性は、随所で見ることができました。まちが良くなく世界に誇ることができる日本人のストロングポイントと弱みがあると思います（残念ながら逆の事象もありましたが）。

臨時休校中、「オンライン授業」や「リモート会議」に注目が集まり、全国各地で試行的な取り組みがなされました。うまくいった部分もありま

教師冥利に尽きる瞬間

「冥利に尽きる」これ以上の幸せはない。

さて、私が勤務する豊橋市立青陵中学校では、毎年、卒業を直前に控えた3年生と校長室で一緒に会食する「スペシャル・ランチタイム」を実施してきました。想い出に残るひと時にしてほしいという願いから、校長就任当初から取り組んでいることです。このスペシャル・ランチタイムによって、3年生との距離がぐっと縮まり卒業式を迎えることができるので、とても大切にしている時間となっています。

ところが今年、感染予防対策としての「給食中の会話厳禁」は継続中です。そこで3年職員と協議した結果、「朝の読書タイム」の時間と昼の休み時間を利用して、「スペシャル・ミーティング」を実施することにしました。例年は1グループ10名程度ですが、今年は密を避けるため、1グループ5名程度です。

事前に出しておいた「3年間でいちばん想い出に残っていることは？」「4月からの新しい生活でがんばりたいことは？」の問いに、生徒たちは丁寧に答えてくれます。今年の学校行事は、苦渋の決断によって、当初計画を大幅に変更してのイレギュラー開催となりましたが、「修学旅行」「体育祭」「青陵祭（文化祭）」と健気に答えてくれる生徒たちに、ほっと胸をなで下ろす場面もありました。

全員がひとしきり語り終わると

「校長先生への質問」を受け付けます。「なぜ教師になろうと思ったのですか」「中学生時代の夢はなんでしたか」などのオーソドックスな質問から、「今度生まれてきても教師になりたいと思いますか」「初恋の人はどんな人でしたか」など、考えさせられたり、ドキッとさせられたりするような質問までさまざまです。

「先生になってよかったと思えることはありませんか」の質問にも、一瞬考えこんでしまいました。でも次の瞬間、臨時休校たった中のできごとが思い浮かびました。ある教え子からメールが届いたのです。届いたメールの内容に補足説明を加えて、その質問への答えとしました。

ある教え子とはT君。T君は小学校4・5・6年の3年間担任した最初の教え子です。彼は大学卒業後、友人とともに学習塾を立ち上げました。今では複数の学習塾を経営する青年実業家であり教育者です。そんな彼から次のようなメールが届いたのです。



スペシャル・ミーティングの様子

すが、環境や条件が十分に整っておらず、世界に遅れを取っていることがあからさまになりました。こうした状況をきっかけとして、デジタル庁新設の動きが出てきたり、GIGAスクール構想が一気に加速したりしました。コロナ禍がなければ、これほど急速な進展はなかったはずですが。

デジタル化に乗り遅れないために

愛知教育文化振興会は、さまざまな刊行物を出版しています。現場の先生がたのご意見を最大限取り入れて「安価で使いやすい」刊行物にしようと、これまで努力を重ねてまいりました。

刊行物ですので、そのほとんどが紙媒体です。しかし、近年の急速なデジタル化の波は、教育界にも大きなうねりとなって押し寄せています。「刊行物にもデジタルを取り入れられないか」という現場のニーズは必然です。そうしたニーズを受けて、QRコードを採用し、画像や音声をタブレット端末やスマホを用いて、見たり聴いたりすることができるようになった刊行物も出てきました。現場の先生がたや児童生徒からは、「実際の画像や音声は、とてもリアルで、見ごたえ、聴きごたえがある」と好評をいただいています。

できることとできないことがあるでしょうが、各編集委員会からは、刊行物のデジタル化を今後いっそう進めていこうとする機運の高まりが伝わってきています。「こんなものがあつたらいいな」「こういうことはできないだろうか」などのアイデアやアドバイスがありましたら、事務局までお寄せください。よろしくお願ひします。

ご無沙汰しております。Tです。

先生の「Rising Sun」*を折りにふれて読ませていただいております。特にここ数か月は苦しい状況が続いており、先生の当時に変わらぬ常に前向きなメッセージから勇気と希望を頂いています。先生のお言葉を読んで、今は不平不満を言わず一歩ずつ前へ進んでいかねばと思っています。思えば先生からは当時も多くのことを学びました。その中でも記憶に残っているのは、挨拶の重要性です。たしか「挨拶は心を開いて相手に迫る」という意味だとおっしゃっていました。

その教えは僕の心にずっと残っていて今でも授業の前に玄関先に立ち、大きな声で登塾してきた生徒に挨拶をするようにしています。こんな時期は特に明るく元気に心がけています。

こうして駄文を打っていると、また先生からいろんな教えを受けたと思うようになってきます。この状況が収束したらまたお話しする機会をつくってください。まずは激務だと思えますがお体に「ご自愛なさってください」。

*「Rising Sun」とは職員向けに発行している校長通信のタイトル。本校のホームページにアップしているため、誰でも閲覧することができます。

このようなメールをもらえる仕事は、教師において他にはありません。「学校はブラック」「ブラック教師」などと取り沙汰されますが、こんな「教師冥利に尽きる瞬間」があることを、もつともつと発信していてもよいように思います。答えを聞いた生徒は、納得顔でした。



子どもが主役のアートミュージアム

- ・子どもが芸術を見て触れて学ぶ
- ・子どもの感受性を高め芸術性を磨く

おかざき

世界子ども美術博物館

岡崎市立奥殿小学校長 赤崎 類子

「おかざき世界子ども美術博物館」は、時代を担う子どもたちに国際的な広い視野と豊かな創造力を身につけてほしいとの願いから、1985年（昭和60年）5月4日、国内でははじめての子ども専門のミュージアムとして開館した。以来35年間、市内外の子どもの創造力を育む場となっている。

ピカソは子どもの頃どのような絵を描いていたのか？

「おかざき世界子ども美術博物館の誕生まで」当時の岡崎市の美術教師たちは「ピカソの絵は多く見る。ピカソは子ども



ロダン《考える人》1880年 平山郁夫 15歳《武者絵》1945年

ることが出来る。また、外国の子どもの絵を通して各国の文化・生活を感じることができる。＊ピカソ作品については常時3点展示している。

◆「DO(作る)」

芸術について考え、見たあとは芸術作品を「DO(作る)」である。館内には「親子造形センター」が併設されており、親子で木や粘土などを使って、実際のモノづくりを楽しむことができる。

親子造形センター

館内に併設している親子造形センターには絵画教室、粘土教室、工作教室、EB教室の4つの体験教室がある。

の頃どのような絵を描いていたのだろう。是非見てみたいものだ」「子ども中心の美術館が欲しい」「世界の子どもの絵を見てみたい」などの願いを機会あるごとに語り合っていた。

昭和55年に「岡崎地域文化広場」の計画が打ち出された。設立の趣旨は、次代を担う子どもたちが美術鑑賞及び創作活動の体験を通じて親子の心の触れ合いを深めるとともに、国際的な視野及び豊かな創造力の獲得を促進することにある。岡崎市の美術教師たちの熱意が伝わったのである。昭和58年から3年計画で建設が進め

・絵画教室

円形の紙に絵を描いてバッジを作ったり、紙に描いた絵がそのまま下敷になるラミアート、紙に描いた絵を布地に転写し手さげ、エプロンなどを作ったりすることができる。

・粘土教室

日常使うカップや動物などを粘土で作って焼く・楽焼することができる。



シーサー

・工作教室

ウサギ、ペンギンなどの動物の型紙に合わせてウレタンを切り、それをボンドで貼り付けて人形を作ることもできる(タイトル上部の作品)。ウレタン万華鏡は小さな子どもでも作ることが出来る。



岡崎地域文化広場

られた。その間、岡崎市の美術教師を中心に岡崎市の教師、日本人学校の教師はじめ、世界各国の協力を得て世界の子どもの作品収集が進められた。昭和60年「おかざき世界子ども美術博物館」「親子造形センター」「ふれあい広場」「芸術の森」などの施設群で構成された「岡崎地域文化広場」が完成した。

おかざき世界子ども美術博物館

当館は主に「THINK(考える)」「SEE(見る)」「DO(作る)」の3つのゾーンで成り立っている。

・EB教室

特殊な石膏基板に絵を描き、その上から樹脂材を塗って電子光線で焼き付けると陶画のように美しく仕上がる作品を作ることができる。



オカリナ

これらの4つの教室は、約1時間余りで制作ができる。費用は材料費のみの負担で、楽しみながら創造力を高めることができる。

岡崎市の小学校4年生を対象にした「造形教室」が行われ、道具の使い方、接着の仕方、基本的な表現方法を学んでいる。

子どもの心をゆさぶる3つのエリア

「おかざき世界子ども美術博物館」や「親子造形センター」で創造の世界にたっぷり浸った後は、野外の3つのエリアで、心も体もリフレッシュすることが出来る。



《ダンス》12歳のポルトガルの子どもの作品

◆「THINK(考える)」このゾーンでは、写真や芸術品の複製を通して、古代から現代までの美術の変貌から芸術の原点・人間のもつ表現力の素晴らしさを知ることができる。

◆「SEE(見る)」このゾーンでは、「見る」を養うことができる。日本を含む世界中の116か国から集めた5万9千点の子どもの絵が収集され、展示されている。さらにピカソ、ムンクなど世界的に有名な芸術家が子どもの頃に描いた貴重な作品を鑑賞し、有名作家の子どもの頃の豊かな感性とあふれる創造性に触れ

星空が描かれた「野外ステージ」を含む「ふれあい広場」にはアートな遊具が点在し、「妖精の棲む浮ぶ島」(表紙右下に掲載)は遠くから見ると浮いているように見え、子どもたちの好奇心をくすぐる。

「はなのき広場」にはベンチがあり、ちょっとしたピクニック気分が味わえる。「芸術の森」には岡崎市の小中学生の作品が展示されている。

当文化広場では令和元年度まで、岡崎市内の幼稚園・小中学校の子どもの全員の作品を展示した「造形おかざきっ子展」が盛大に開催された(来場者の駐車場の確保が難しくなり、令和2年度から岡崎中央総合公園に移る)。この造形おかざきっ子展に展示された子どもたちの創造性豊かな作品に触れ、木立の間から流れる風を味わうことができるエリアである。年間約17万人の来場者がある。



造形おかざきっ子展

文字は書くもの

豊橋筆 杉浦製筆所

四代目 杉浦美充



Profile すぎうら よしみつ

1964年 豊橋生まれ
1985年 浜松短期大学卒業
東京浅草の書道用品専門店入社
1986年 株式会社杉浦製筆所入社
2006年 経産大臣認定
豊橋筆伝統工芸士認定
2019年 株式会社杉浦製筆所
代表取締役就任

日本の大切な伝統文化である「書道」。「書道」に必要な道具「筆・墨・硯・紙」、この4つの道具のことを「文房四宝」といいます。実は「文房四宝」の中で一番研究がなされていない、研究材料が残っていないのが「筆」です。これは「筆」は文字や絵を書くための道具とではしか捉えられていなかったからだといわれています。

日本での「筆」の歴史は、弘法大師が遣唐使として現在の中国に渡り、仏教などと一緒に筆造りも日本（奈良）に伝えたとされていますが、現在我々が行っている製造方法は、明治時代前半に変化を遂げた製造方法です。この変化を遂げた製造方法も日本独自のものではなく、唐時代末期以降中国で行っていた製造方法を東京の筆職人に伝授してもらい、それが豊橋に伝わったものだけです。

令和2年度より、小学校1年生から書写の授業で筆が使われるようになりました。ただ1・2年生は筆ペンのような筆に水をしみ込ませて特殊な紙に水で文字を書く、といった鉛筆では味わえない毛筆の感覚を身近に感じてもらう、3年生から筆と墨で紙に書く授業になります。最近学校教育の中では、「墨」は「墨液」に変わり、「硯」は

ただ墨液を入れるだけの容器と変わってしまったというようです。また、「筆」も100均で買える時代になってしまっています。もちろん全否定はいたしません、限られた授業の中で書道が上手になる必要はないと思っておりますし、上手くなるわけがないとも思っています。墨を硯で磨り、それを筆にしみ込ませ白い紙に墨を置く。文字ではなく○や△だっといういやなですか。子どもたちには白い紙に黒い墨で筆を用いて何かを書く、といった書道の楽しさを学校では教えていただければと常々思っております。

私共の工房では30年以上前より、地元の小学校の見学を受け入れたり、時には出前講座も開講してきました。近年、国や市から援助をいただき4年生を対象に市内小学校の内15〜16校を4件の筆工房に割り振って出前講座を開講し、製造工程の実演を見せたり、一番最後に簡単な作業を子供達にやってもらい、1本の筆に仕上げ「My筆」として持ち帰ってもらう、といった事業を行っております。私はその講座の最後に必ず子どもたちに話すことが2つあります。

1つは、筆の材料となる動物の毛は殺処分された動物の毛であること。最初は子どもたちは

「キヤー、かわいそう」と叫びますが、「それは筆のために殺処分された訳ではなく、その目的は肉や皮を取ることであり、最後に残った毛を使って筆を作るんだよ」と説明すると「そうか、僕は鶏も牛も豚も食べてる」とか「私は馬を食べたことがある」とか少なからず納得してくれています。

2つ目は、筆の構造を簡単に説明するために、筆をクラスに例えて話をします。「筆の材料となる動物の毛にはそれぞれ長所と短所があります。長所を生かして他の動物の毛の短所を補ってあげ、その集合体が1本の筆になるんだよ」と。「例えばクラスが1本の筆として、みんなが1本1本の毛とする。1人1人それぞれ長所と短所があると思うけど、自分の長所でクラスメイトの短所を助けてあげる。それをみんなが行えばみんながお互いを助け合いとてもいいクラス、筆になる」と説明します。とりあえずは子どもたちはうなずいています。

今回この文章を目にして、忘れ去られそうになっていた「文房四宝」を持ち出してちょっと筆で書いてみようかな、と思っていただければ幸いです。今一度、文字は打つのではなく、書くことだと思いついてみてはいかがでしょうか。



教室の窓辺

音読を積み重ねて

みよし市立黒笹小学校 教諭

鈴木 晶子

「もう一回、音読やりたい」

本校では、「共に学び、高め合う子ども育成」をめざし、国語科において『音読』を重視している。豊かな音読表現ができるよう指導すること、一つ一つの言葉を感じ取り、考える子どもに育てようと、全職員で取り組んできた。国語科の授業の始め10分間は、さまざまな方法で音読に集中する。

まず、「バラバラ読み」で全員がそれぞれのペースで声を出し、発声練習をする。続いて、全員が一人一文ずつ担当し、席順で読みつなげる



「へび読み」をする。さらに、数行ずつ分担して読む「代表読み」で、みんなの前で自信をもたせる。そして、一時間の授業の終わりには、その時間の読みの深まりを音読で表現する味読をめざす。今年、一年生担任。

音読の基本を教える重要な学年である。音読のポイントとして「大きな声で」「はっきりと」「『、』や『。』はあけて」「出てくる人になりきって」の四項目を提示した。一人一人の音読を教師が褒めることで、小さかった声はだんだん大きくなり、自信をもつようになってきた。大きな声で読める子は、さらにどの言葉にどんな気持ちを込めたいのかに着目し始めた。大切な言葉（伝えたい様子や気持ちを表している言葉）に着目した表現方法を褒めることで、自分で考えて表現する児童になっていくことを実感した。

授業の中で、分からない言葉を出し合い、言葉の学習をし、動作化で理解し、子どもたちの意識から課題を設定し、話し合う。そんな単元展開の中で、音読は、どんどん深化していく。

十二月に実践した「スイミー」の学習では、お話の世界を楽しみ、「音読で、スイミーになりきると楽しいから、もっとやりたい」と夢中になって音読をする姿が見られた。体をゆすりながら音読する子、暗記してすらすら読み得意げな子、代表の子が読む文を指で追いつら聞いていた子の表情も、文脈に合わせて変わってくる。

今年、コロナ禍の中で、二人組で近づいて交代で読み合ったり、大きな声を出したりすることが憚られる状況であった。しかし、声を出すからこそ気づき、読みが深まる、そんな音読を積み重ねてきた。これからも音読を生かし、共に学び、高め合う子どもを育てていきたい。



出てくる人になりきって

音読指導に重点を置くことは、いわゆる「本校の当たり前」のひとつです。教室での音読は、自分の読みだけでなく、友だちの音読を聴きながら、文章を目で追い、耳から音声が入ることでイメージがふくらみ、読みが深まります。

音読は、すらすらと読めるだけでなく、一つ一つのことは（描写）や主人公のセリフをその子なりに読んでいくことが、基本中の基本です。一年生の教室で子どもたちと一緒に、音読をしている鈴木教諭の取り組みを支援していきたい。

（校長 吉野 嘉郎）

特色ある教育活動

「郡市教育・研究助成」を生かした取り組み紹介

「未来を切り拓く子」を

めざして

田原市立六連小学校

研究主任 大羽佳洋

六連小学校は、田原市の東南端に位置しています。児童数は62名で、子どもも教師も全校児童のことを知っているよさがあります。

本校は、平成30年度から田原市教育委員会より3年間の研究委嘱を受け、研究主題を「未来を切り拓く力・態度の育成」「見方・考え方」を働かせるための六連スタイルの学習指導を通して」とし、社会科と生活科に焦点を当てて研究に取り組んできました。

単元づくり

隣接の保育園、地域の商店や寺社・自主防災会・市役所・放送局などを取り上げ、地域の人がかかわる学習活動を中心に据えています。また、子どもたちが働かせる「見方・考え方」を、単元構想図へ1時間に1つ以上を位置付けて実践しています。さらに、「見方・考え方」の例をまとめた「見方の味方」シートを作成して、子どもの追究を支えています。主に単元の終末には、他学年

や保育園の子たちに発表する場を設けたり、追究してきたことや判断・意思決定したことを提案書、8コマ漫画などに表したりして、提案や発信をしています。

授業づくり

本校では、1時間の授業を、①本時の学習問題の確認と「出し合いたいむ」②ゆさぶる発問や資料提示と第二学習問題の設定③第二学習問題についての「話し合いたいむ」④意思決定を迫る「振り返りたいむ」の4段階の授業を通して、家庭や地域、社会へのかかわり方について判断し、自らの意思で決定していく姿を引き出すことに努めました。

研究の実際

第5学年社会科「情報を生かす産業」では、はじめに、昔と今のコンビニエンスストア（以下、コンビニ）の写真を提示すると、利用機会の増加から、コンビニの情報活用について問題意識をもちました。そこで追究をするにあたり、「見方の味方」シートを活用して、学習計画を立てました。輸送・販売・サービスの工夫や努力・連携など、働かせる見方・考え方を明確にして追究を始めました。校区に唯一あるコンビニへ行行った際に、本

部からの指示があることを知った子どもたちは、東京本社とオンラインで授業を行い、情報活用場面や方法について聞いたり、質問したりしました。店舗や本社から調べ学習をしたところで、学習問題「コンビニはどのような情報を活用しているのかな」について「出し合いたいむ」をしました。そこで、保護者からのアンケートで、知っているけど活用していないという実態を取り上げてゆさぶり、第二学習問題「情報を活用することによって、本当に便利になっているのかな」を設定して、判断・決定を促す「話し合いたいむ」をしました。この授業をきっかけに、子どもたちは有用な情報をもっと知らせた方がよいと考え、学習発表会では保護者に発表しました。保護者とともにアプリで支払ったり商品を受け取ったりするなど便利なサービスを活用する姿も見られ、子どもたちにとって、校区に一つしかないコンビニをさらに有効に活用して自分たちの生活をよりよいものにしてほしいと思います。

コロナ禍でさまざま

な行動が制限されるとともに、自分のできることは何かを問われています。このようなときだからこそ、自分の手「未来を切り拓く力・態度」を養っていきたいと思います。



資料を使って発言する様子

ネイチャーウォッチング

参加者の声

親子で楽しむ
ネイチャーウォッチング

今年は、全6講座を計画したネイチャーウォッチングも、コロナ禍のため開催があやぶまれましたが、何とかAグループの「化石を発掘しよう」とBグループの「干潟の鳥ウォッチング」の2講座を開催することができました。両日とも天候に恵まれ、抽選により参加した家族のみなさんは楽しい一時を過ごしていました。

干潟の鳥ウォッチング(10月18日)

緑が浜公園 (田原市)



石のしたを見たら、ごかいがいたのでうれしかったです。(子)

岡崎市から1時間で、こんな豊かな干潟があるとは知りませんでした。潮の満ち引きを体感できて楽しかったです。(親)

干潟が楽しかったです。カニやたくさんの鳥が見られて良かったです。(子)

「もうこんな時間かあ〜」と子どもが言うほど夢中に楽しめた時間でした。普段バイパスで通過するときに見ていた干潟をこれだけじっくり観察でき、また採れた生物などを先生が「これは〇〇だよ」と質問に答えてくださることで、とても興味関心が高まったと思います。(親)



化石を発掘しよう！(11月29日)

伊古部海岸 (豊橋市)

とても楽しかったです。まだまだ掘りたいし、化石について知りたいです。(子)

化石を見つけて自分で掘り出すのが楽しかったです。今まで体験したことがなかったので、興味をもって行うことができました。(親)

とても楽しく、化石や昔の生物に関心をもつことができました。またやりたい。(子)

自然が好きになり、大変良かったです。勉強になりました。(親)



令和2年度
かきぞめコンクール

「かきぞめ手本」を題材にした第10回かきぞめコンクールを行いました。三河地区から小学生の部2505点、中学生の部451点、計2956点の応募がありました。

書家・編集委員の先生方によって慎重に審査され、最優秀賞9点、優秀賞18点、佳作63点、奨励賞179点選ばれました。奨励賞を含む入賞者一覧はホームページに掲載しています。

例年行われています「表彰式」と「作品展」は残念ながら開催することができませんでした。表彰式を心待ちにしていたご家族の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。「作品展」に代わりまして、最優秀賞と優秀賞に輝きました作品を、愛知教育文化振興会のホームページにて紹介しています。どうぞご覧ください。

当法人で刊行している「かきぞめ手本」において、書家の先生方の毛筆の動画が見られるように、評価表（応募用紙付き）のなかにQRコードを掲載していく予定です。来年度はとりあえず一部の学年にて掲載します。ご期待ください。

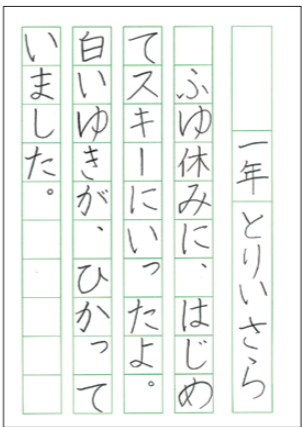


最優秀作品の紹介

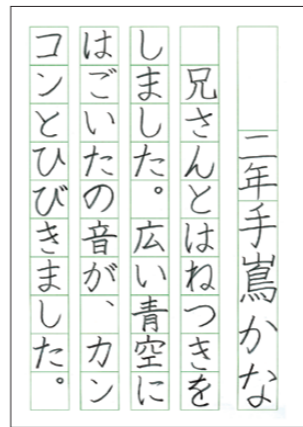
本年度のかきぞめコンクールで、最優秀賞を受賞された9名のみなさんの作品を紹介します。

〔小学生の部〕

西尾・平坂小学校
一年 鳥居 咲良



豊田・駒場小学校
二年 手嶌 華菜



ふじ山
三年 伊藤 颯汰
豊田・中山小学校

花さく里
四年 山田 晴
豊田・駒場小学校

春の足音
五年 坂井 来光
みよし・天王小学校

世界平和
六年 米津 基
安城・里町小学校

公明正大
一年 村瀬 七海
豊田・美里中学校

輝く生命
二年 椎葉 芽生
豊田・崇化館中学校

新たな挑戦
三年 石川 諒一
豊田・前林中学校

講評

「かきぞめ手本」編集委員長
豊田市立追分小学校長 柴田みどり

かきぞめコンクールに応募された作品は、子どもたちが真剣に書く姿やそのときの緊張感を想像させる力作ぞろいでした。

1、2年生の硬筆は、1文字1文字丁寧に書かれていました。鉛筆の力強さを生かして、濃くしっかり書けた作品が目を見ました。3年生以上の毛筆は、素直な筆さばきでのびのび書いたり、手本をしっかりと見て左右のバランスや点画の接続など細かいところまで注意を払って書いたりした作品に感心しました。特に中学生の行書は、つながりを意識して筆運び、気持ちを集中させて書かれた甲乙つけがたい作品が大変たくさんありました。

納得できる1枚にたどり着くまでに、より高い目標をもち、何度も何度も練習したことこそが、皆さんの書く力を向上させているはず。これからも、書くことを楽しみの一つとして、自分の作品を味わいながら、自分の力を高めることに挑み続けられることを願っています。



喜びの石川くん

令和2年度かきぞめコンクール入賞者（最優秀賞・優秀賞・佳作）一覧

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年
最優秀賞	西尾・平坂小 鳥居 咲良	豊田・駒場小 手嶌 華菜	豊田・中山小 伊藤 颯汰	豊田・駒場小 山田 晴	みよし・天王小 坂井 来光	安城・里町小 米津 基	豊田・美里中 村瀬 七海	豊田・崇化館中 椎葉 芽生	豊田・前林中 石川 諒一
優秀賞	刈谷・亀城小 豊野 莉唯	豊田・野見小 高島 彩加	安城・桜井小 伊藤 絵天	豊田・野見小 村瀬 朱音	豊田・朝日小 村松 泰征	豊田・寺部小 渡邊菜々葉	豊田・前林中 山田 柊	豊田・崇化館中 浦浜恵里華	豊田・浄水中 川崎ほの香
	西尾・矢田小 永江 彩香	豊田・大林小 渡辺 由真	幸田町・豊坂小 山崎 ゆゆ	安城・安城中部小 桑子 紗奈	安城・安城北小 坂口 蒼依	蒲郡・蒲郡北部小 小谷川颯大	みよし・三好丘中 渡辺 葵	豊田・前林中 沼崎 千昂	安城・東山中 中原 愛彩
佳作	岡崎・井田小 杉江 柑南	岡崎・井田小 湯浅 凜音	豊田・朝日小 西 麗桜	碧南・新川小 犬塚 琉迦	豊田・井上小 赤澤 芭菜	豊田・拳母小 鈴木 星愛	刈谷・朝日中 柘植いずみ	碧南・東中 名倉 有紀	豊田・高岡中 有上 麻菜
	豊田・中山小 伊藤 里紗	豊田・朝日小 堀 美咲	豊田・山之手小 河村 丈	豊田・小清水小 兵頭 徠夢	豊田・井上小 杉淵 柊二	豊田・梅坪小 小野 爽	豊田・朝日丘中 浦野はづき	豊田・朝日丘中 荒川 心美	豊田・高岡中 横井 杏実
	豊田・若林東小 小林 一路	豊田・朝日小 吉田 旬	安城・桜井小 磯谷 海瑠	豊田・大林小 渡辺 翔真	豊田・拳母小 河原 優那	豊田・梅坪小 初田 桃花	豊田・上郷中 竹知 舞帆	豊田・上郷中 荒牧 李來	豊田・美里中 松井 萌絵
	西尾・平坂小 菊田麻友里	豊田・野見小 村瀬 結香	西尾・一色中部小 中津 颯人	安城・安城北小 今井 花音	豊田・元城小 吉岡柚子香	豊田・寺部小 澤田 彩花	豊田・井郷中 川合 凧彩	豊田・美里中 大嶋 妃織	豊田・梅坪台中 小野 栞
	西尾・一色東部小 青木 花帆	豊田・美山小 橋屋 魁人	西尾・荻原小 徳倉 愛	安城・安城北小 濱野 蒼太	豊田・若園小 山崎 妃葵	豊田・小清水小 兵頭 柚羽	安城・安城南中 青木 万桜	豊田・若園中 後藤 瑤悳	西尾・西尾中 青山さくら
みよし・中部小 鈴木芽依奈	豊田・前山小 水口優莉子	みよし・中部小 尾藤 朝飛	安城・桜井小 佐藤 望白	豊田・若園小 山中 太陽	豊田・大林小 竹花早耶香	安城・東山中 市川 桜子	安城・東山中 天野 芽	西尾・西尾中 橋本 芽	
みよし・中部小 尾藤 道彦	西尾・矢田小 田口 尚磨	蒲郡・蒲郡北部小 小池 春陽	西尾・平坂小 鳥居 礼夢	蒲郡・竹島小 岡田 茉希	安城・作野小 小川 芽久	安城・東山中 坂口 陽香	西尾・一色中 長田 昇大	西尾・吉良中 大須賀映美	

令和2年度
みかわ彩発見
絵画コンクール

平成30年度より始まりました「みかわ彩発見絵画コンクール」も今年で3年目を迎えました。本年度は、春・夏の部に1049点、秋・冬の部に308点の応募がありました。応募にご協力いただきました皆さんにお礼を申し上げます。

本年度の最優秀賞入賞者とその作品、優秀賞入賞者を紹介します。残念ながら予定していましたが「表彰式」と「作品展」は開催することができませんでした。そこで、ホームページには入賞者の一覧とともに、最優秀賞・優秀賞に輝きました作品を掲載しています。ご覧ください。



「学校賞」を三校に贈呈

「みかわ彩発見絵画コンクール」に全校で取り組んでいる学校の中から、特にその取り組みが顕著な学校に対して、本法人から3校に「学校賞」を贈呈しました。

《大規模校》西尾市立西尾小学校
《中規模校》幸田町立荻谷小学校
《小規模校》新城市立黄柳川小学校

講評

三河教育研究会造形部会長
西尾市立米津小学校長 丹羽 圭介

今年は春・夏の部、秋・冬の部合わせて1357点もの応募がありました。

特に今年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、十分な時間確保が難しい状況の中で、三河各地の先生方が子どもたちの感性を豊かに育てる造形教育に力を注がれたことに深く敬意を表すものです。

応募された作品は、子どもたちが限られた時間の中で楽しく集中して描いていると感じられる作品を多く見ることができました。審査にあたり、発達段階に応じた、子どもらしい感性がよく表現されている作品を選出させていただきました。

本絵画コンクールは、「三河の「くらし」「まつり」「ふるさと」をテーマに、人々の姿を通して子どもたちの感性を磨くために開催されています。今後とも、先生方の授業実践の中で磨かれた、表現力あふれる作品の応募を期待しています。



受賞とともに喜び合う

最優秀賞入賞者及び作品 (秋・冬の部)



がんばったよ!ときょう走
愛教大・附属岡崎小学校
1年 服部 彩音



みんながんばれ!マラソン大会
豊橋・吉田方小学校
2年 小川 有宇



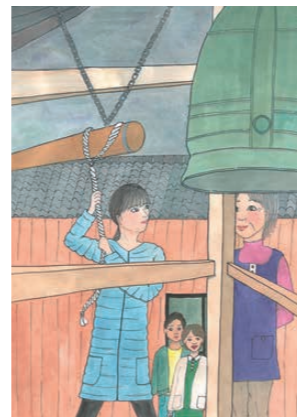
今年はマスクしてすべります
岡崎・六ツ美北部小学校
3年 五島 来夢



家族でおせち
幸田・豊坂小学校
4年 北澤 あまね



秋祭り
刈谷・衣浦小学校
5年 宝野 一真

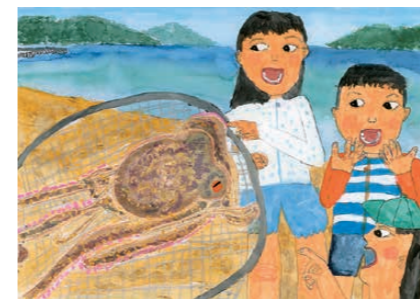


じよ夜のかね
幸田・豊坂小学校
6年 山本 蒼結

優秀賞入賞者 (秋・冬の部)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
豊橋・前芝小 塩野 羽菜	愛教大・附属岡崎小 秋田 優	岡崎・六名小 上蘭 侑馬	愛教大・附属岡崎小 貝沼 姫和	幸田・荻谷小 中島 淳志	西尾・矢田小 犬塚 琥愛
豊川・千両小 山口 葵	田原・清田小 白谷 心美	豊橋・つつじが丘小 山村 文乃	岡崎・小豆坂小 増永 稟	豊川・千両小 井上 美咲	豊川・豊川小 天野 風香

最優秀賞入賞者及び作品 (春・夏の部)



マダコが釣れたよ
刈谷・双葉小学校
2年 近藤 佳歩



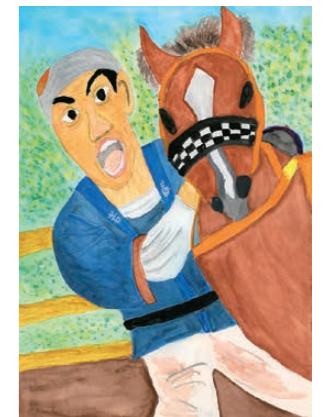
高はまのまつり
高浜・高浜小学校
3年 杉浦 怜花



かっこいいづつはなび
豊橋・鷹丘小学校
1年 鈴木 香澄



とよはしてづつはなび
豊橋・天伯小学校
6年 平 夏樹



おまんと祭り
高浜・吉浜小学校
5年 小原 蒼人

優秀賞入賞者 (春・夏の部)

1年	2年	3年	4年	5年	6年
岡崎・井田小 田形 杏梨	安城・丈山小 齋藤 灯	刈谷・東刈谷小 横井 依久乃	岡崎・大門小 蜂須賀 蒼乃	安城・桜井小 野村 英汰	碧南・大浜小 石野 聖七
岡崎・小豆坂小 増永 奨	豊橋・栄小 村田 那美	知立・知立小 加藤 慎之亮	安城・新田小 峯村 日菜子	碧南・棚尾小 池畑 侑来	幸田・豊坂小 山本 蒼結

令和2年度

「個人研究助成」

～審査を終えて～

本法人では、教育振興の目的を達成するため、個人研究助成を行っています。

この度、平成29年度を研究1年次として、令和元年度までの3年間、着実に研究を推進され、提出された10名の先生方の論文の最終審査が行われました。どの論文も3年間の成果が見事にまとめられていました。このうち、3名の先生方の論文が特に優秀として選ばれました。ここでは、審査に当たられた浅井英雄審査委員長の見解の概要とともに紹介いたします。

講評

新型コロナウイルス感染症拡大という前例のない状況のなか、教育研究論文を執筆してくださったことに、まずもって敬意を表するとともに、深く感謝いたします。本当にありがとうございます。

学校現場では、感染防止対策のために多くの時間が費やされたことと推察いたします。にもかかわらず、質の高い実践が展開され、子どもの変容や成長をつぶさにとらえて、仮説の確かさや手だての有効性を論じたものが多く、改めて三河教育の底力を実感し、有能な若手教員が育っていることを喜ばしく思いました。

どの実践も、三河教育に脈々と伝わってきた、子どもをとらえ願いをかける

「子どもありき」の考え方が根底に流れていました。そればかりでなく、時代の変化やニーズを敏感に感じ取り、先進的な取り組みをされたものも複数あり、三河教育が成長し続けていることもあわせて感じ取ることができました。

3年間にわたり、「継続性」「連続性」「関連性」を意識した実践が多く、目の前の子どもたちの実態を見極めつつも、1年先、2年先を見据え、見通していたことに頭が下がる思いです。

審査にあたっては、いずれの実践も優れていて甲乙つけがたく、順位をつける作業は困難を極めました。寄せられた論文は全てが秀逸です。

ただ、課題がないわけではありませんが、以下、指摘されたいいくつかの課題を列記します。今後の参考にしていただけたら幸いです。

- ・3年間継続の研究で、校種が変わってしまったり教科を変えざるをえなかったりしたとき、研究に一貫性をもたせるための論立てを工夫するとよい。
- ・仮説を検証するための手だてに獨創性を感じられないものがあった。「なるほど!」と読み手が納得するような工夫を凝らした独自の手だてを期待したい。
- ・資料が小さすぎたり不鮮明だったりして読み取れないものがあった。資料や写真の量とともにレイアウトにも工夫が凝らされると更によい。
- ・誤字脱字は致命的なミスではないが、確実にマイナスポイントとなる。複数回、複数の目で推敲する必要がある。

◇3年次個人研究審査結果◇

最優秀賞

蒲郡市立蒲郡南部小学校

杉本 芳依



「子どもたちとともに成長できた3年間、角柱と円柱」の実践を通して「算数」

子どもたちとともに成長できた3年間でした。支えてくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

優秀賞

岡崎市立梅園小学校

小山絵美梨



数学的活動を通して主体的に考える力を育てる授業「算数」

3年間の研究期間を経て、授業実践を深めることができました。

優秀賞

岡崎市立竜海中学校

武井 翔



主体的に探究し、グローバルな視野をもつて、共に学びを深め合う生徒の育成「総合的な学習」

優秀賞の栄に浴し、身に余る思いです。本研究を継続・発展させ、今後も授業研究に励んでまいります。

令和2年度

教育図書出版助成

本法人では、教育図書の出版に対して助成を行うとともに、その内容についてお知らせし、教育の振興を図っています。

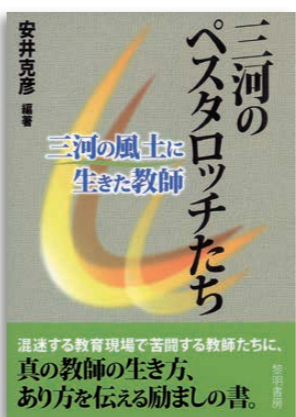
応募対象は、三河の小・中学校教員及び教員であった個人またはグループ・学校、教育関係団体や保護者の業績をまとめた教育図書で、経費の多くを公費等の援助を受けずに出版したものです。

今年度は、審査会において4点の助成が決定されました。なお、令和3年度の応募要項は、愛知教育文化振興会のホームページに掲載されます。

三河のペスタロッツチたち

編著者 元吉良町教育長 安井克彦

A5判 204頁 2000円



三河の風土に根ざした実直な教育をつくりあげた「三河のペスタロッツチ」ともいえるすぐれた22名の教師の一途な生き方を紹介した感動の書。

独創性を育む ―新しい見方で捉え、よりよい考えを生み出す子ども―

編著者 愛知教育大学附属岡崎中学校

B5判 128頁 2000円



私たちは、どのような社会になろうと、子どもが主体となって生活できるように、子どもの独創性を育みたいと願い、研究を進めてきた。本書は、5年間の研究成果をまとめたものである。

独創性を育むために、全教科で統一して4つの力(問いをもつ力、本質に迫る力、学びを表現する力、差異を把握する力)を設定し、対象を新しい見方で捉え、よりよい考えを生み出す資質を養ってきた。本書では特に、「差異を把握する力」を高めるために、「意見交流の授業において、「2段階思考」という手法をとり、てだて①「差異に気づく」とてだて②「差異を吟味する」を講じることで、よりよい考えを生み出す子どもの姿を具体的に示している。

問題解決的学習過程による単元と2段階思考を生かした実践(全教科・計36実践)を紹介している。「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善のヒントが詰まった1冊である。

教師が力量を高める上で重要なことは「優れた先輩や教師との出会い」である。伸びようとする教師は、自分の周りから自分の師匠ともいえるべき、尊敬する教師を見つけるべきである。教育実践哲学者、森信三先生曰く「人はすべからず、終生の師をもつべし」と。

本書を読むことによって、三河の教育をリードしてきた22名の教育者の教育理念、教育愛、使命感、人間愛、情熱、指導力、学び続ける意欲等をぜひ、参考にしてください。

今、教職50年を終えて、静かにふり返ってみると、いい教師になることはできなかった。慚愧に堪えない。しかし、本書を読まれる教師はまだ若い。三河のすべての教師たちが、それぞれのペスタロッツチを求めて精進されることを祈っている。

日本人のための

やさしい3つ星英会話

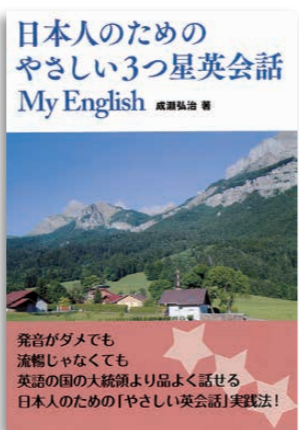
My English

著者 成瀬 弘治(出版人間社)

B6判 142頁 1600円

日本人は中高大と英語を多く学んでいる。日常あまり使わないのでサビついているだけで咄嗟に単語が出て来ないのは当たり前で恥ずかしいことではない。

インド人・中国人・・・は細かいミスを気にせず英語で話そうとする。会話はテストではない。日本人に求められるのは



思いや考えを相手に伝える発信力である。やさしい単語を使った短い英文ほど多くの人に正確に伝わる。

きれいな発音・流暢でなくても、主語とやさしい動詞で即反応し、あとゆっくり言葉をつなげる。相手を思いやる英語が3つ星英会話になる。

中高生の会話力・大学生の教養力アップに役立つ内容にしてある。

学校で児童生徒に自信を持って英語を指導できる内容になるように務めた。

国際書籍番号が付き国会図書館に納本された。話す勇氣と自信が湧き、あなたの英会話がワン・ランク上に変身することを祈ります。

小学校図工エッジパン題材モデル

(低・中・高)

編著者 愛知県造形教育研究会

B5判 128頁 2420円

愛知県造形教育研究会が、これまで取り組んできた図画工作科の授業の中で、特に子どもたちが夢中になり、つくりだす喜びを味わった魅力ある題材を、絵画・立体・工作・造形遊び・鑑賞の領



域毎に低学年・中学年・高学年の3巻にまとめたものである。

内容は、新学習指導要領に対応しており、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3項目で、授業者が授業を進めながら評価できるように評価シートを掲載した。

また、指導過程では、指導のポイントを明記して、各過程での確かな指導・助言ができるようになっていく。研究授業等を行う際の指導案作成にも役立つような構成にもなっている。

3巻で約80の題材が掲載されていて、授業を実践していく上で大いに参考になる書物である。

文振だより



◇ 令和3年度版刊行物第I期注文文ありがとうございました。デイリーイングリッシュからリニューアルしました「英語演習」につきましては、三河の中学校で75%以上採用していただくことになりました。お礼を申し上げます。実際に使ってみてご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。注文いただきました刊行物につきましては、3月末までに配本させていただきます。

◇ 令和3年度版の刊行物の編集を無事終えることができました。2月9日に予定していました編集委員長・関係部会長会につきましては、三河教育会館での開催は中止となりました。参加予定であった方々に要項を送付し、来年度の編集方針についてご理解をいただきました。いよいよ、令和4年度版の編集に向けて動き出しています。

◇ 「みかわ彩発見絵画コンクール」で、「学校賞」を受賞された3校には、盾と応募児童全員に参加賞を贈呈しました。



申請書提出・刊行物注文締切

- 個人研究助成(2年次・3年次)申請書提出/令和3年4月30日(金)
(1年次)申請書提出/令和3年6月11日(金)
- ◇ 第II期刊行物注文締切/令和3年5月10日(月)~13日(木)
- 郡市研究・団体研究助成・学校ボランティアグループ助成
申請書提出/令和3年5月10日(月)~21日(金)



会議の予定

- 第1回文振郡市正副代表者会 4月16日(金)
- 第1回文振郡市事務担当者会 4月23日(金)
- 第1回編集委員長会 6月11日(金)

ネイチャーウォッチング

令和3年度のネイチャーウォッチングの計画が決まりました。
少しでも多くの親子に参加していただけるよう、A・Bの2つの日程で実施します。

対象 三河地区在住で、小学生とその保護者で希望する親子

応募期間 令和3年4月1日(木)~5月7日(金)

A日程 定員/30組

- A1 「めざせ 虫博士」** セミ、トンボ、チョウなどの昆虫採集体験
日時：6月27日(日) 9:30~12:00
場所：岡崎市少年自然の家(岡崎市須渚町)
- A2 「干潟の鳥ウォッチング」** シギ、チドリ、サギなどの野鳥観察体験
日時：9月5日(日) 10:00~12:00
場所：汐川干潟(田原市緑が浜)
- A3 「化石を発見しよう」** 貝や広葉樹などの化石採集体験
日時：11月28日(日) 10:00~12:00
場所：豊橋市野外教育センター前海岸(豊橋市伊古部町)

B日程 定員/30組

- B1 「川の生き物調べ」** 水生昆虫や川魚などの生き物調査体験
日時：8月21日(土) 9:30~12:00
場所：岡崎市少年自然の家(岡崎市須渚町)
- B2 「里山の生き物ウォッチング」** 秋の生物(虫、植物、鳥)の観察体験
日時：9月25日(土) 10:00~12:00
場所：東三河ふるさと公園(豊川市御油町)
- B3 「星空ウォッチング」** オリオン座、すばるなどの天体観測体験
日時：令和4年2月5日(土) 19:00~21:00
場所：岡崎市少年自然の家(岡崎市須渚町)

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

